

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-110	高等学校	商業	商品開発と流通	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	※教科書名		
7・実教	007-908	商品開発と流通 新訂版		

## 1. 編修の基本方針

- ・商品開発と流通について、実務に即して体系的・系統的に理解できるようにするため、本文記述とともに実社会に即した具体的事例を「事例」として掲載した。
- ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、本文記述に関連した興味深い考察を「コラム」として掲載した。
- ・自主及び自律の精神を養う観点から、章の終わりに学習内容の理解度を問う「確認問題」を掲載し、自学自習に取り組めるようにした。
- ・主体的・協働的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、「事例」と「コラム」を基にした実習課題として「+ S t u d y」を掲載し、主体的・対話的に内容の理解を深める学習ができるようにした。
- ・知識だけでなく、商品開発に必要な技術も学ぶために、適宜実習ページを配置した。

## 2. 対照表

図書の内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
見返し	<p>個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養う観点から、障がいの有無や能力の差などにかかわらず多くの人の利用しやすくするユニバーサルデザインと、何かしらの機能に制限のある人のニーズに焦点を合わせて改善を実現するアクセシブルデザインについて、実際の商品の事例と絡めて取り上げた。(第2号)</p> <p>伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する観点から、全国各地の高校が地元の特産品を取り入れた商品開発の実践例を紹介した。(第5号)</p>	巻末  巻末⑤⑥

<p>1 章</p>	<p>幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、商品とは何か、流通とは何か、それらはどのように誕生したのかの説明を行った。（第1号）</p> <p>伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことの観点から、グローバル化の進展により日本の地方で活動している企業でも世界全体を顧客とする必要性を述べ、その事例として香川県の企業が海外を顧客にしていることを取り上げた。（第5号）</p> <p>職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養う観点から、イノベーションを取り上げ、身の回りの商品やビジネスもイノベーションの結果として進化していることを説明した。（第2号）</p> <p>生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、コラムでSDGsを意識した商品開発を取り上げ、プラスチック廃棄物の削減のためにパッケージを紙に切り替えた企業の取り組みを記述した。（第4号）</p> <p>主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、社会の変化に合わせて商品を開発する意義についてイラストを交えて記述した。（第3号）</p> <p>幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うために、商品開発の手順を説明した。（第1号）</p> <p>自他の敬愛と協力を重んずる観点から、さまざまな部門のメンバーが一つのチームを形成して商品開発を進めるノンリニア型開発を、事例を交えて紹介した。（第3号）</p> <p>幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、流通の役割や仕組みについて解説を行った。（第1号）</p>	<p>p. 8～9</p> <p>p. 9</p> <p>p. 11</p> <p>p. 14</p> <p>p. 19</p> <p>p. 24～27</p> <p>p. 28</p> <p>p. 29～32</p>
<p>2 章</p>	<p>創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養う観点から、コラムにて、糊付き付箋の開発時のエピソードを紹介し、商品開発における創造性の重要性について取り上げた。（第2号）</p> <p>正義と責任を重んずる態度を養う観点から、商品の開発チームにはリーダーシップ能力を持つリーダーを選定することの重要性について取り上げた。（第3号）</p>	<p>p. 36</p> <p>p. 37</p>

	<p>生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、事例にて、地球環境に悪影響を与える恐れのあるプラスチックの利用制限の動きが、商品開発へどのような影響を与えるのかを取り上げた。(第4号)</p> <p>公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、企業理念とミッションの重要性と、成功している企業の多くは企業理念とミッションに沿って商品開発を行っていることを、事例を交えて記述した。(第3号)</p> <p>伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する観点から、インスタント麺のメーカーは、多様な食文化を持つ日本において、地域に合わせて即席うどんのつゆの味を変えていることを取り上げた。(第5号)</p> <p>幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、商品開発における市場調査の重要性やプロセス、方法について記述した。(第1号)</p> <p>自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、たくさんの商品アイデアを発想する方法の一つとしてブレインストーミングとそのやり方について記述した。(第3号)</p> <p>個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視する観点から、水平思考の一例としてSCAMPERを取り上げ、既存のアイデアから新しいアイデアを創造することで新しいサービスを起こせることの例を説明した。(第2号)</p> <p>自他の敬愛と協力を重んずる観点から、商品開発の意思決定を行う責任者に商品の魅力や特徴を説明して承認をもらうために行うプレゼンテーションを取り上げ、プレゼンテーションで成功するためのポイントについても説明した。(第3号)</p>	<p>p. 38</p> <p>p. 42</p> <p>p. 45～46</p> <p>p. 48～55</p> <p>p. 57</p> <p>p. 58</p> <p>p. 62</p>
<p>3章</p>	<p>幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、事業計画の目的や手順を説明するなど、事業計画の概要を示した。(第1号)</p> <p>創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、勤労を重んずる態度を養う観点から、事業計画書の作成方法を示した。(第2号)</p>	<p>p. 70</p> <p>p. 83～86</p>

	公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、開発した商品が発売された後の検証を行い、消費者の不満をフィードバックして商品の改良を行うことの重要性について納豆の事例を交え記述した。(第3号)	p. 86
4 章	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、商品コンセプトを具体化し商品化するために必要である商品仕様と詳細設計、プロトタイプについて説明を行った。(第1号)	p. 98～105
	自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、Feature「市場への導入」のなかで、新商品が売れるためには、流通や販売に関わる企業や人々の応援が必要であることを記述した。(第3号)	p. 106～107
	自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、チョコレートの商品を取り上げ、食べ終わったらそのまま捨てるだけのプラスチック製のパッケージから、折り鶴を作れ大切な人に思いを伝えるツールとして活用ができる紙製パッケージに変更した事例を紹介した。(第4号)	p. 138
	正義と責任の観点から、開発した商品を無断で真似されないために、知的財産権を保護することの重要性を記した。(第3号)	p. 140
	伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する観点から、技術移転機関の橋渡しによる産学連携を取り上げ、地元の大学と地元のメーカーが持つそれぞれの技術が連携し新しい地元の特産品が商品化された事例を紹介した。(第5号)	p. 148
5 章	勤労を重んずる態度を養うことの観点から、企業に向けての販売員活動である営業の仕事内容について紹介した。(第2号)	p. 150～151
	自他の敬愛と協力を重んずる態度を養う観点から、販売員は接客サービスにおいてホスピタリティ溢れる対応を意識することの重要性について説いた。(第3号)	p. 152
	豊かな情操と道徳心を培う観点から、顧客満足と販売員活動の結びつきを取り上げ、その例として従業員満足が向上されると顧客満足が上がるサービス・プロフィット・チェーンについて記述した。(第1号)	p. 154～155
	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養	p. 156～159

	う観点から，消費者の購買意欲を高める活動であるセールス・プロモーションについて，金銭的・非金銭的を含めて紹介した。（第1号）	
6章	<p>幅広い知識と教養を身に付け，真理を求める態度を養う観点から，デザイン思考について，5段階のプロセスも含めて説明を行った。（第1号）</p> <p>公共の精神に基づき，主体的に社会の形成に参画し，その発展に寄与する態度を養う観点から，クラウドファンディングを取り上げ，支援者からの資金や意見を取り入れて商品開発が行われることを記述した。（第3号）</p> <p>個人の価値を尊重する観点から，一人ひとりの好みや属性に基づき個別に行われる昨今のマーケティングのなかで，個人情報保護法に触れ，個人情報は適切で厳正な管理が求められていることを述べた。（第2号）</p> <p>幅広い知識と教養を身に付け，真理を求める態度を養い，豊かな情操と道徳心を培うとともに，健やかな身体を養う観点から，五感を利用した商品開発と流通の事例について説明した。（第1号）</p>	<p>p. 171</p> <p>p. 173</p> <p>p. 179</p> <p>p. 180～182</p>

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

商品の企画開発から消費者の手に渡るまでの一連の流れを体系的に理解させるために，章立てや内容の構成に配慮を行った。また，学習内容を理解しやすくするため，本文はやさしく簡潔に，図，イラスト，統計資料，写真を豊富に掲載することを心がけた。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-110	高等学校	商業	商品開発と流通	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
7・実教	007-908	商品開発と流通 新訂版		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

科目『商品開発と流通』を生徒が興味を持って学習し、基礎的・基本的な事項を無理なく習得できるように、以下の点に配慮した。

- (1) 教科書の冒頭にIntroductionを置き、なぜ商品開発と流通は行われるのかや、『商品開発と流通』をなぜ学ぶのかを記し、初学者の学習意欲と目的意識の喚起につながるように配慮した。
- (2) 生徒が事例と関連付けて本文内容を理解できるように、本文記述に対応した具体的事例を「事例」としてまとめた。また、生徒の意欲を引き出すため、本文記述に関連する興味深い話題を「コラム」としてまとめた。
- (3) 生徒が主体的かつ協働的に学習に取り組むことができるように、「事例」「コラム」に対応した実習課題として「+Study」を掲載した。テーマに応じて「調べよう」「考えよう」「話し合おう」という三つの観点のなかから課題を設定し、多様な観点で学習内容を深められるように配慮した。
- (4) 「1章 商品開発と流通の概要」では、商品開発と流通の概要と、商品開発の流れについて扱った。
- (5) 「2章 商品の企画」では、商品開発の出発点となる商品の企画について学び、環境分析と意思決定の準備、市場調査、商品コンセプトの策定の手順を経て、商品開発の意思決定を行う過程について扱った。
- (6) 「3章 事業計画の立案」では、開発した商品を事業化させるための事業計画の立案について章として独立させ、事業計画書を作成するにあたって必要な要素を指導項目「(3)事業計画」「(4)流通とプロモーション」から抽出して扱うことにした。
- (7) 「4章 商品の開発」では、商品コンセプトを具体化し、商品化するための商品仕様と詳細設計、詳細設計を決めるうえで必要なデザイン、競合との差別化を図るためのブランド、商品を保護するための知的財産権について扱った。また、商品が完成した後のプロセスとして、特集Feature「市場への導入」を設けた。
- (8) 「5章 商品の販売」では、商品を顧客の手元に届けるための活動として、販売員活動とセールス・プロモーションについて扱った。

- (9) 「6章 商品開発と流通に関わる新たな展開」では、指導項目「(3)カ 商品開発の動向・課題」と「(4)ウ 流通とプロモーションの動向・課題」にある新たな動向を抽出して扱うことにした。
- (10) 章末を中心に、実践的、体験的な学習につなげられ、技術を身に付けられるように実習ページを置いた。
- (11) 各章末に、学習内容の理解を確認するために、確認問題を配置した。
- (12) 学習指導要領「(3)事業計画 イ商品デザインの制作」との対応として、4章内に特集Feature「デザインの技法」「パッケージデザインの機能・技法」「グラフィックデザインの機能・技法」、実習「パッケージをデザインする」「ポスターをデザインする」を設けた。
- (13) 新しく商品開発を行いたい学校への参考となることを狙い、巻末⑤⑥に全国の高校で実際に行われた商品開発の実践例を紹介した。
- (14) 生徒の興味関心付けのため、二次元コードまたはURLから、本文に関連した「事例インタビュー動画」を視聴できるようにした。
- (15) 側注欄に、先生をイラスト化したキャラクターの吹き出しを掲載し、内容の理解を助ける役割を与えた。
- (16) 側注欄に、重要用語の意味をまとめた「Word」を掲載し、用語の意味が理解しやすくなるようにした。
- (17) 側注欄に、本文や図、グラフに関連した実習課題である「+W o r k」を掲載し、多様な観点で学習内容を深められるように配慮した。
- (18) 本文下には適宜参照ページを示し、教科書全体の流れをつかみ、相互の内容について理解が深まるようにした。
- (19) 巻末には、本書の重要用語をまとめた「重要用語のまとめと解説」を掲載した。
- (20) 基本的な用語については、英語表記に慣れ親しむことができるように、英訳のルビを振った。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
1章 商品開発と流通の概要		p. 8～34	(18)
1節 私たちの生活と商品	(1)ア 商品の概念と商品開発の流れ		8
2節 商品開発の意義と手順	(1)ア 商品の概念と商品開発の流れ (1)ウ 市場環境の変化		6
3節 商品と流通の関わり	(1)イ 流通の仕組みと商品との関わり (1)ウ 市場環境の変化		4
2章 商品の企画		p. 36～62	(19)
1節 環境分析と意思決定の準備	(2)ア 環境分析 (2)イ 開発方針とテーマの決定		9
2節 市場調査	(2)ウ 市場調査		5
3節 商品コンセプトの策定	(2)エ 商品企画書の作成		4
4節 商品企画の提案			1
3章 事業計画の立案		p. 70～87	(13)
1節 事業計画の概要	(3)オ 事業計画書の作成		1
2節 価格計画	(3)エ 価格の設定		3
3節 流通計画	(4)ア 流通経路の開拓		3
4節 プロモーション計画	(4)イ プロモーションの実施		3
5節 事業計画書の作成	(3)オ 事業計画書の作成		3
4章 商品の開発		p. 98～148	(36)
1節 商品仕様と詳細設計	(3)ア 商品仕様の詳細設計と評価		3
2節 プロトタイプ	(3)ア 商品仕様の詳細設計と評価		4
3節 商品とデザイン	(3)イ 商品デザインの制作		16
4節 ブランド	(1)イ 流通の仕組みと商品との関わり		7
5節 知的財産権の登録	(3)ウ 知的財産の登録		6
5章 商品の販売		p. 150～164	(10)
1節 販売員活動	(4)ア 流通経路の開拓 (4)イ プロモーションの実施 (4)ウ 流通とプロモーションの動向・課題		4
2節 セールス・プロモーション	(4)イ プロモーションの実施 (4)ウ 流通とプロモーションの動向・課題		6
6章 商品開発と流通に関わる新たな展開		p. 170～182	(9)
1節 商品開発の新たな展開	(1)ウ 市場環境の変化		4
2節 流通の新たな展開	(3)カ 商品開発の動向・課題		3
3節 感覚を活かした商品開発・流通	(4)ウ 流通とプロモーションの動向・課題		2
		<b>合計</b>	<b>105</b>